氏名：　　学籍番号：　　No:　　平成27年 10月20日

① 題名：『リーダーシップに挑む日本の教師 ㊤』　石川芳孝 著

② 概要：小学5年生の算数科での授業分析記録および、授業者の授業後の反省から、授業者が授業内でどのような意思決定をして、子どもたちと関わっているのかを考える。

③ キーワード：「教授－学習過程(の改善)における教師の意思決定」

④ メインメッセージ：分析対象となった授業者は、授業内における自らの意思決定によって、子どもの思考を促進し、相互作用（教師と子ども、あるいは子どもどうし）を変化させるなど、子どもたちが「考えること」に多大な影響を与えていた。［授業分析やその後の反省などを通して、このことを明らかにすることで、教師の資質向上にもつながるのでは？］

⑤内容：「2-1、モハメドさんとの研究への参加」・「①子どもに考える力をつけるために教科書を使用させない」・「など」について

(2-1) モハメドさんからの質問事項の1つに「Q8 教師は生涯学び続ける人として、どうしたらそうなれるか」とあるが、教師が生涯学び続ける人であるということは、よく(?)言われていることであるが、現役の教師にその意識はあるのか、あれば上記の質問にどう答えるのか、が気になった。

(①) 教科書と言うと、授業には欠かせないものというイメージが強いが、授業者は教科書を使用させないことで、子どもたちが多様に考えを持てるように働きかけた。確かに、教科書にはヒントや解説が載っており、一度見ると、考え方を理解した「つもり」にはなるが、本当に思考の発達につながってはいないのだろうと感じた。

⑥⑤ その他：(自分の意見・疑問・質問・課題・分かったこと・思ったことなど)

・P.102「努力点 授業研究」とはどのような授業研究のことか

・P.113『子どもの世界で分かる言葉』とあり、その後、教師が説明するよりも、子どもが説明する方がよいと記されているが、本当にそう断言できるのか

⑦⑥ 理由：(なぜそう思ったのか)

2点目については、確かに、教師の説明が難しいと感じ、子どものくだけたような説明の方が分かりやすいという状況もあるとは思うが、逆に、子どもたちの説明が不足、あるいは難しくなり、聞く側が困乱してしまうこともあるのではないかと考えたため。

⑧⑦ 結論：教師の説明がよいか、子どもの説明がよいかに関しては、その状況によると考える。教師が説明することで考えるのやめ、子どもの思考の始まりとなる場合もあれば、逆により深い理解や思考へとつながる場合もありうる。子どもが説明する場合も同様である。重要なのは、教師がどちらに説明させるのが適当なのかを臨機応変に見極めることである。これは容易なことではないが、授業分析や反省会の場を通して

氏名：　　学籍番号：　　No: 2　　平成27年10月21日

① 題名：リーダーシップに挑む日本の教師

② 概要：小学5年生に対する算数科「面積」の単元の授業。授業の場面ごとにその説明、教師の発言の解釈、教師の反省をもとにした解釈を行い、各場面で教師がなぜそのような言動をするに至ったかを考察している。

③ キーワード：教師の意思決定、思考、態度

④ メインメッセージ：教師の反省をもとにした解釈の中で、「多くの子に活躍の場を与える」ために発表をさせたり、「子どもの相互関係をつくる」ために理解できていない子に理解できている子が指導するようにしたりと、まさに教師が学びの環境をデザインしているようである。子どもの自尊心を高め、自分たちで学習をすすめられるようにしようという意識が見られ、また重要でもある。

⑤内容：「質問事項　　」・「場面④ 解釈」・「など」について

「自己更新」というワードが良い。
「変化」「成長」よりも
能動的な雰囲気がある。

筆者の観察
→ 理解できていない子どもの
ためになる方法を示して
くれそうなT子を指名

石川教諭
→ 先回の反省を生かし、
女子を授業に参加させる
ためにT子を指名

見えているものと、意図されているもののギャップが面白い。

⑥⑤ その他：(自分の意見・疑問・質問・課題・分かったこと・思ったことなど)

Q 子ども同士で教え合うほうが理解できるのはなぜか

(A. 先生よりもききやすいから？ 会話しやすい？ 言葉が通じやすい？)

⑦⑥ 理由：(なぜそう思ったのか)

特に論理的思考力が発達段階にある小学生の子どもでは、その子の頭の中(だけ)で成り立っている論理があり、それを他の子どもに伝えられるのかというところが疑問。

⑧⑦ 結論：教師の信念(石川教諭の場合は子ども中心のアプローチ)に従って、子どもの様子や反応を見ながら授業を展開していくことが必要である。さらに、その1回1回、1つ1つの出来事を教師自身の経験として受け止めていくことで次の授業につながる。

氏名：　　学籍番号：　　No: 2　　平成 27 年 10 月 21 日

① 題名：リーダーシップに挑む 日本の教師 (2-1, 2-2)

② 概要：本文では、アラニ先生の博士論文を中心に取り上げる。テーマは、「教授―学習過程の改善における教師の意思決定の質的変化」だ。観察した授業を分節化し、それぞれの場面での教師の意思決定について、その理由やねらいや効果を分析する。石川教諭の意思決定の意図からは、研修での反省や彼の授業観をうかがうことができる。例えば彼は、教師が説明するよりも、子ども同士で相互関係をつくる方が理解が深まると思っているので、わかる子にわからない子へ説明させるという意思決定をする。この背景には、彼が、授業を、学び合い、異なる考えをもつ者同士認め合う場だと考えていることがある。

③ キーワード：教師の意思決定, ねらい, 子ども中心のアプローチ, 多様性

④ メインメッセージ：石川教諭の授業について読んで、授業の一つひとつの展開には教師のねらいをもった合理的な意思決定があることに驚いた。本文でいう「子ども中心のアプローチ」は、最近推進されているアクティブ・ラーニングに近いと思う。多くの学校で、子ども自身に発表させたり、グループ活動を取り入れたりしていると思うが、石川教諭のように一つひとつの展開について、子どもの思考の変化まで予想し意思決定をすることは難しいだろう。アクティブ・ラーニングを導入する意図について知っておく必要があるし、子どもがどんな風に考えるか、どんな活動が有効かを知るためには授業研究は欠かせないと思った。従来の一方的な授業とは異なり、子どもの思考力の成長は著しくなるだろうから、以前にも増して授業研究は授業改善に重要な役割を果たすようになると思う。

⑤内容：「⑤ある子どもの面積を求める…」・「　授業研究のまとめ　」・「など」について

「ある子どもの面積を求める方法を別の子どもに説明させる」場面では、他の子の考えをどのように理解したか知るだけでなく、説明を聞いている子どもにも『自分ならこう説明する』という思考が働くというところまで、意思決定のねらいが及んでいるのが驚きだ。他にも様々な場面で、多様性や異文化理解、自尊心について考慮している。多様な考えが出てくるように、と石川教諭はできるだけ多くの子どもを授業に参加させようとしているが、それは多くの子どもたちに表現するチャンス、自己効力感を高めるチャンスを与えていることにもなると思う。算数だけでなく、他の教科でも、このような授業をできれば、子どもたちは自分の得意分野で活躍するチャンスを得られるだろう。子ども中心の学習は、生涯学び続ける態度の形成にとって重要なので、それを導入すべき適切な場面というのはあるが、できるだけ多くの教科でできればいいと思った。多くの教師が、石川教諭のような授業観や、それを実現するための技能を共有するという点でも授業研究や勉強会という場が大切なのだろう。

⑥⑤ その他：(自分の意見・疑問・質問・課題・分かったこと・思ったことなど)

(授業研究のまとめ, p.123)「子ども中心のアプローチを取ることで…教師が危険を引き受けられるようになる」とはどういうことか、ここでいう危険とは何か疑問に思った。

⑦⑥ 理由：(なぜそう思ったのか)

自分の経験からは授業中の「危険」というのが思い当たらないが、子どもが途中でつまづいて授業について来られなくなる、ということだと予想する

⑧⑦ 結論：石川教諭の授業に表れているような授業観は、彼が自ら読んだ本や、授業研究での反省―すなわち彼自身の学びによって獲得されたものだと、本文から分かる。近年、アクティブ・ラーニングの推奨などを通して授業方法がどんどん更新されているが、授業の展開が教師の意思決定に基づいているのだから、教師の授業観の更新も疎かにしてはならないと思った。

氏名：　　学籍番号：　　No: 2　　平成27年10月15日

① 題名：「リーダーシップに挑む日本の教師」

② 概要：本論は現職教育が教師の資質向上にいかに寄与するか、ということを研究するアラニ先生による検証と、仮検証者佐藤による叙述によって構成されている。石川(教諭)(仮検証者)による平行四辺形の面積を応用して求める授業においては、次の傾向が見られた。① 子どもは四角形の面積を求める時に具体的な長さや高さが分からないと混乱する生徒がいる。② 長さや高さのとり方、面積の求め方を言葉で表現しなければならない③ 教師の説明よりもおとものの説明の方がおともにとって分かりやすいという点である。教員はこういった教授法を通して、例えば子どもに説明させるだけでなく、その説明が他の子たちのような影響を与えたか、人的資源や制度的条件を調整しようとしたりしている。

③ キーワード：
学びの場のデザイン、教授技術、指導法、現職教育、授業分析、反省、を見通したり

④ メインメッセージ：
他者の発表を聞く；他者に教えるということは「子どもの世界で分かる言葉」があることから、有効であり、他者理解が進むと述べられているが、これは学校でしかできない学びである。ICTの進歩が著しい現代では分かりやすく教えるだけならICTを用いればよい。その中で学校の役割というものが問い直されており、この相互学習こそが学校にとって重要になるだろう。

⑤内容：「学びの場のデザイン」・「教科書を使用させない」・「など」について

- 本文中にはP104にて「考えが多様にもてる場をつくる」、P120にて「教師はそれぞれのおとものをずにこたえるために人的資源や制度的条件を調整したいと考える。」と記載しており、これはアラニ先生がよく言う、「学びの場をデザインすることが教師の役割」と大きく関わるものである。
- 石川先生は本文中の授業では教科書を使用させなかった。教科書を用いると問題に対してのアプローチの仕方が一辺倒になってしまうと判断したためである。このように教科書の悪いポイントを把握し授業を行う先生は日常的に「教科書を教えるのでなく「教科書で教え」ているのだろう。いい

⑥⑤ その他：(自分の意見・疑問・質問・課題・分かったこと・思ったことなど)

- 子どもが自由に学ぶ中にも指導法・教授技術は確実にある。

? 「努力点授業研究」(P102)とは？

⑦⑥ 理由：(なぜそう思ったのか)

- 「自由の枠組みを作るのは教員であるから。

⑧⑦ 結論：

- 良い授業をするには子ども一人ひとりの特性を知るだけでなく、子ども同士の関係性を知る必要がある。子ども同士の相互学習が鍵となる。そのために教師は

氏名：　　学籍番号：　　No: 2　　平成27年10月21日

① 題名：リーダーシップに挑む日本の教師

② 概要：算数の授業を例に出し、教師の意志決定とその要因を解明することで、子どもたちの思考や態度にどのように作用したかを明らかにした。

③ キーワード：現職教育、意志決定、子ども中心のアプローチ

④ メインメッセージ：
教科書を参考にしない授業は、どちらかというと自身の体験では一般的であった。今は、ただ自分で考えて説明できる力にプラス、他者の考えを理解し説明できる力を備えることが求められていると聞き、そのことによって授業の進め方、教師の役割も深く考える必要性があると考える。

⑤内容：A先生ハメドさんからの質問事項「B子どもの世界で分かる課」・「など」について

A 子どもに対する考え方、授業観、教師像等についての質問に対して、常に教師は答えを持つべきである。問い直していくことで成長することにつながる。

B 教師の説明が必ずしも分かりやすいわけではなく、子どもの考え方、表現の仕方には目を向けると面白い。

⑥⑤ その他：(自分の意見・疑問・質問・課題・分かったこと・思ったことなど)
筆者の言う通り、石川教諭は校内研修前後で大きく変わったかどうかは定かではない。「23年の教職経験があることを考えれば、校内研修があろうとなかろうと、日々自己の授業を反省し、自然と改善していると思われる。」

⑦⑥ 理由：(なぜそう思ったのか)

⑧⑦ 結論：
現職教育としての「授業研究」の有効性は証明できる。
授業において教師が担う役割、なすべき仕事は多様にある

氏名：　　学籍番号：　　No:　　平成27年10月21日

① 題名：リーダーシップに挑む日本の教師

② 概要：石川教諭の授業には、子供同士で教え合ったり、考えを深めるような工夫がされている。子ども中心のアプローチを取ることで、子どもと打ち解けることができ、また、子どもが成功し、自尊心を培うことができる。

③ キーワード：子ども中心のアプローチ

④ メインメッセージ：

子どもの発言に、「今日ははじめはよくわからなかったけれど、みんなといっしょにやったりしたらよくわかった」とあることから、ただ教師の発言を聞くよりも、子ども同士で互いに学び合ったほうが、より理解が深まる。

⑤内容：「質問事項　　」・「授業研究のまとめ　　」・「など」について

日ごろは何も考えずに、教師を続けることもできるが、教師の精神が老化していると、教師と一緒にいることに興味を失ってしまう。教師は、新しい生命である子どもたちと向き合い、その進むべき道を切り拓いて仕事に打ち込むこと。

石川教諭は、子どもたちが自分自身の考えを説明し、他の子どもの説明を聞く機会を多く提供している。子ども中心のアプローチ。

⑥⑤ その他：(自分の意見・疑問・質問・課題・分かったこと・思ったことなど)

子どもが教師より、他の子どもの発表のほうが理解しやすいのはなぜか。

→興味の持ち方が違うから？

⑦⑥ 理由：(なぜそう思ったのか)

教え方自体は、何年も同じ授業をしている教師のほうがよりまとまっていて分かりやすいはずであるが、教師よりも他の子どもの意見のほうが分かりやすいというのは、不思議である。

⑧⑦ 結論：

子どもたち同士で考え合ったり、教え合ったりする子ども中心のアプローチは、子どもの理解を促す上で重要である。ただし、授業の中で考えさせることは非常に時間がかかる。

これらのことは、石川教諭が学んできた授業観である。

氏名：　　学籍番号：　　No: 2　　平成27年10月20日

① 題名：リーダーシップに挑む日本の教師

② 概要：石川教諭の授業を分析した結果，次のことがわかった。

- 石川氏は授業で授業一学習過程及び経営スタイルを変えており，子どもの思考を優先することに慣れている。また，自分の取った結果や制作した作品を他の子どもに紹介する機会を多くもち，授業で子供たちが学びあい，認め合う学習の「場」を提供した。
- 子ども中心のアプローチを実践することにより，子どもが自学びを修得するための配慮にいる。

③ キーワード：モハメドさんからの質問事項，自己更新

④ メインメッセージ：

先生の授業研究に対する姿勢が表われている質問で，とても興味深い。
この質問に対して，石川氏は「教師は精神が老化するとダメになる。自己更新によって精神的に身体的にも若々しさを自分のものにしていくのが必要」と述べている。
「自己更新」という概念が面白い。

⑤内容：「教科書を使用しない」・「　　待に　　」・「など」について

・小学3・4年生のころだったと思う。先生が突然「1から10まで足すといくつになるか」という質問をした。教科書には書かれていない質問だった。この問題に対する子供たちは1日中ずっと考えつづけた。そして，友達と数字や数字を示しながら，答えにたどりつくことができた。その質問はいまでも記憶に残っている。「考えること」を触発する良い質問だと思う。

⑥⑤ その他：(自分の意見・疑問・質問・課題・分かったこと・思ったことなど)

「子どもの世界で分かる言葉」とは，とても重要な概念だと思う。

⑦⑥ 理由：(なぜそう思ったのか)

人の話す言葉は，同じ日本語であっても，1人1人ちがう。言葉には，その人の人格や価値観があらわれる。したがって，ある人の言葉を理解しようと思うときは，

⑧⑦ 結論：その人により添って耳を傾ける必要がある。

人の話を聴くことはとても難しいが，自分の解釈で理解するのではなく，相手の言葉によりそって耳を傾けなくてはならない。